

# 避難場所一覧

災害が起きた場合、避難の判断によって生死が分かれることがあります。テレビやラジオ、町などからの情報、自分の目と耳で確かめた状況をもとに、避難の判断とタイミングを決めましょう。

避難所は災害の規模や状況に応じて開設されます。避難所開設の際は、防災行政無線などで町民のみなさんにお知らせしますので、早めの避難を心がけてください。

 <b>広域避難場所</b> 危険が切迫しているときに逃げる避難場所			
No	名称	所在地	電話番号
1	黒松内小学校グラウンド	字黒松内 357-1	72-3023
2	白井川小学校グラウンド	字白井川 16-35	73-2012
3	作開地区生涯学習館グラウンド	字南作開 76-1	—
4	熱郭地区生涯学習館グラウンド	字熱郭 34-3	—
5	大成地区生涯学習館グラウンド	字大成 137-1	—
6	豊幌地区生涯学習館グラウンド	字豊幌 437	—
7	中ノ川地区生涯学習館グラウンド	字中ノ川 297-1	—
8	黒松内中学校グラウンド	字旭野 48-1	72-3069
9	白井川中学校グラウンド	字白井川 17-9	73-2024
10	つくし園グラウンド	字黒松内 561-5	72-3033
11	黒松内町健康増進施設（多目的広場）	字黒松内 497-1	—
12	黒松内町営野球場	字黒松内 498-2	—

 <b>指定避難所</b> 自宅が被災した時などに避難生活を送る場所			
No	名称	所在地	電話番号
1	黒松内小学校	字黒松内 357-1	72-3023
2	総合町民センター	字黒松内 392-2	72-3160
3	白井川小学校	字白井川 16-35	73-2012
4	作開地区生涯学習館	字南作開 76-1	—
5	作開保健福祉館	字北作開 85-1	—
6	大成振興会館	字大成 44-24	—
7	中ノ川地区生涯学習館	字中ノ川 297-1	—
8	豊幌振興会館	字豊幌 425-4	—
9	歌才地区集会所	字歌才 357-1	—
10	黒松内中学校	字旭野 48-1	72-3069
11	白井川地区コミュニティセンター	字白井川 8-268	—
12	余市養護学校しりべし学園分校	字黒松内 564	72-4436
13	環境学習センター	字黒松内 584-3	72-3010
14	黒松内温泉ぶなの森	字黒松内 544-1	72-4566
15	トワ・ヴェールⅡ（道の駅）	字白井川 8-10	71-2222
16	黒松内町総合体育館	字黒松内 392-2	72-3749

 <b>福祉避難所</b> 障がい者などの要配慮者が安心して生活できる避難場所			
No	名称	所在地	電話番号
1	養護老人ホーム 緑ヶ丘老人ホーム	字黒松内 562-4	72-3139
2	黒松内町 デイ・サービスセンター	字黒松内 562-4	72-3750
3	特別養護老人ホーム 緑ヶ丘ハイツ	字黒松内 561-1	72-3330
4	老人保健施設 湯の里・黒松内	字黒松内 565-11	77-2120
5	福祉型障害児入所施設 しりべし学園	字黒松内 565-2	72-3173
6	障害者支援施設 しりべし学園成人寮	字黒松内 565-2	77-2950
7	障害者支援施設 後志リハビリセンター	字黒松内 563-6	72-3767
8	児童養護施設 黒松内つくし園	字黒松内 562-1	72-3033
9	認定こども園 黒松内保育園	字黒松内 303	72-3230

 <b>一時避難場所</b> 危険が切迫しているときに一時的に逃げる避難場所		
No	名称	所在地
1	黒松内駅前広場	字黒松内鉄道用地
2	黒松内町役場駐車場	字黒松内 302-1
3	黒松内公住子供の遊び場	字黒松内 58-6
4	熱郭公住若草会館駐車場	字熱郭 37-7
5	黒松内町旧ゲートボール場	字黒松内 631-12
6	黒松内児童館グラウンド	字黒松内 23-1
7	熱郭駅前広場	字白井川鉄道用地
8	中ノ川地区小公園	字中ノ川 62-4

## 要配慮者とは？

高齢者や乳幼児、病気や障害がある人、妊産婦、日本語が理解できない外国人など、特に配慮を要する人を「**要配慮者**」といい、そのうち、災害時に自ら避難することが困難で、避難行動の際に支援が必要な人を「**避難行動要支援者**」といいます。災害発生という非常時には、身体・言葉に不自由のある人ほど、大きな不安を抱くものです。そんなときこそ、思いやりの心で接し、その人の立場に立った支援を心がけましょう。

## 支援する際のポイント

- ・ **高齢者・寝たきりの方**には、複数の方で対応しましょう。搬送する際は、おぶったり、担架を使いましょう。
- ・ **耳が不自由な方**には、口を大きく動かし、はっきり、ゆっくり話しましょう。筆談、身ぶりなどで伝えましょう。
- ・ **目が不自由な方**には、白杖を持つ手と反対側の肘のあたりに軽く触れ、ゆっくりと誘導しましょう。誘導先の障害物や道路状況等を説明しながら進みましょう。
- ・ **肢体が不自由な方**については、階段では2人以上で支援しましょう。1人しかいない場合は、おぶりひも等を用意し、おぶって避難しましょう。
- ・ **知的障害のある方**は、1人にはせず、慌てないようにやさしい声で誘導しましょう。
- ・ **内部障害のある方**には、かかりつけの医療機関をはじめとする病院や救護所などの情報収集の手助けをしましょう。